

広島県鉄鋼工業会

## 山本理事長、5期目続投

### 若手リーダー育成に傾注

協同組合広島県鉄構工業会（理事長・山本泰徳・ステントス社長、組合員数80社）は先月30日、広島駅前ホテルで第49回通常総会を開催、対面形式での総会・懇親会は3年ぶり。約70人が出席した。役員改選で山本理事長の5期目の続投を決めた。理事には若手を多



山本理事長①、米森全国鉄構工業協会会長②、白田日本製鉄中国支店長が挨拶

く登用し、青年部に予算を傾注するなど次世代のリーダー育成に努める。業界に先駆け、組合および組合企業とその社員の相談に乗る顧問弁護士制度を導入した。

冒頭、山本理事長は「組合員が1社も欠けることなく3年ぶりに顔合わせできたことを嬉しく思う。素材の急激な高騰や田安と、ジェットコースターの経営が当面続こう。自分の立ち位置を見定め、立ち上がり、戦う姿勢を示すことが、今後のファブ業界の大きなポイントではないか。しっかり儲けて社員、社会に還元できれば、この業界はますます発展しよう」と述べた。

続いて来賓の湯崎英彦広島県知事は「経営環境は厳しいと聞くが、高度な知見と経験

を建築物の安全安心の確保に生かしてほしい」、米森昭夫全国鉄構工業協会会長は「12年間、人材育成や原価管理の周知徹底に努め、委員会も多く設けて少しずつ実になってきた。6月の退任にあたり、皆さんにはお礼を言いたく本総会に出席した」と辞辞を述べた。議事終了後には、24年間理事を務めた中島秀晴三和鉄構建設会長が退任することから、その功績を称え感謝状を贈呈した。

総会・講演会後の懇親会では、日本製鉄中国支店の白田学支店長が鋼材高の状況を懸み「急激なコスト上昇をサプライチェーン内で押し付け合うのではなく、社会全体で応分の負担をする仕組みの構築の実現が急務だ」と述べた。

を建築物の安全安心の確保に生かしてほしい」、米森昭夫全国鉄構工業協会会長は「12年間、人材育成や原価管理の周知徹底に努め、委員会も多く設けて少しずつ実になってきた。6月の退任にあたり、皆さんにはお礼を言いたく本総会に出席した」と辞辞を述べた。議事終了後には、24年間理事を務めた中島秀晴三和鉄構建設会長が退任することから、その功績を称え感謝状を贈呈した。

総会・講演会後の懇